

○議長（井上光三君）

続いて、通告5番 9番 深澤公雄君の一般質問を行います。

○議長（井上光三君）

9番 深澤公雄君。

○9番議員（深澤公雄君）

では通告に基づきまして質問させていただきます。まず初めに、新庁舎建設について、質問させていただきます。いよいよ役場本庁舎建設もプロポーザルに、設計業者が決定し、基本設計に入っていく段階にきています。町内でもいろいろな意見も出ています。私は今回の新庁舎建設はしっかりとした町民に親しまれる建物を造るべきと考えます。もちろん必要以上に大きな建物を造る必要はありません。その辺はしっかりと精査しながら建設に向け、進んでいくことが大事だと考えます。そして、次の世代、次の時代の富士川町の中核とし、町民の暮らしに役立つ、庁舎にすることが最優先だと考えます。本日は、新庁舎建設に関し、私の考えを示しながら質問したいと思います。

まず初めに、今回の新庁舎建設に関し、木質化の考え方をお聞きします。今までも何人かの議員が質問しましたが、ここでもう一度木質化の考えがあるのか伺います。

○議長（井上光三君）

管財課長 樋口一也君。

○管財課長（樋口一也君）

ただいまの木質化に関するご質問にお答えいたします。新庁舎建設の木質化につきましては、「富士川町内の公共建築物等における木材の利用の促進に関する方針」におきまして、内装等の木質化や、備品などの木材利用を促進するとしています。

また、「新庁舎整備基本計画」におきましても、県産材を活用した内装の木質化を検討するとしています。4月にオープンしました富士川町児童センターにおきましては、積極的に木質化を図り、内装に木材をふんだんに使用したことで、温かみがあり、心地よく安心して過ごせる施設として整備したところであります。こうしたことから、新庁舎建設におきましても、積極的に木質化を図って参りたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

9番 深澤公雄君。

○9番議員（深澤公雄君）

今の答弁では、内装については木質化を考えているということで、児童センターも内装を木質、非常にすばらしい木質化をしていると思います。ただ私もいろいろな庁舎を、視察に行きましたけれども、外壁に、木質化を使っている庁舎もたくさんあります。これは、メンテナンスなんかも非常に大変だということもお聞きしていますけれども、外から見た感じも材木化があると感じが印象が変わってくると思うんで、ぜひ外壁の木質化も考えてもらいたいと思うんですけどそのへんの考えをお伺いいたします。

○議長（井上光三君）

管財課長 樋口一也君。

○管財課長（樋口一也君）

外装の木質化につきましても、内装と同様に使用できる個所等を検討させていただきたいと

考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

9 番 深澤公雄君。

○9 番議員（深澤公雄君）

ぜひ、その方向でお願いしたいと思います。

次に2番目の質問に移ります。庁舎建設における町有林の使用の考えを伺います。

○議長（井上光三君）

管財課長 樋口一也君。

○管財課長（樋口一也君）

ただいまの町有林に関する質問にお答えいたします。町有林につきましては、平成30年度に木の樹種や本数、材積、搬出に係る周辺状況などの「森林経営計画に伴う町有林現地調査」を実施いたしました。

その結果、切り出しやすい場所に使用できそうな木材が多くあることから、今後、県の関係機関や林業事業者等と協議を行いながら、費用面、木材の利用方法、建設スケジュールなどを含め、町有林の木材の利用を検討して参りたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

9 番 深澤公雄君。

○9 番議員（深澤公雄君）

今の答弁の中で、町有林の木材が多くあるということで、本数はわかりますか。

○議長（井上光三君）

管財課長 樋口一也君。

○管財課長（樋口一也君）

町有林の調査におきましては、面積といたしまして、全体で542,700㎡、そのうち、利用可能と思われる木材は、25,844本を調査したところであります。

○議長（井上光三君）

9 番 深澤公雄君。

○9 番議員（深澤公雄君）

25,844本が使用可能ということでよろしいでしょうか。

○議長（井上光三君）

管財課長 樋口一也君。

○管財課長（樋口一也君）

使用可能ということではなくて調査の中で、25,844本を調査いたしました。この内、使用可能となりますと、現地の中で調査しなければならないということと。地区が広くございますので、どの地区の本数を使ってよいかということまでは現在調査はしてございません。以上です。

○議長（井上光三君）

9 番 深澤公雄君。

○9 番議員（深澤公雄君）

出来るだけ多く町有林を使っていただければと思います。また調査の方も引き続きお願いしたいと思います。では3番目の質問に移らせていただきます。2年ほど前ですけども何人か

の議員で、山形県の鶴岡市に、地域材の分離発注及び木材調達について勉強してきました。ここで少し鶴岡市の取り組みを紹介させていただいていただきます。鶴岡市ではまず、地元の森林再生計画から始めたそうです。その再生構想第一に、適正な森林保全に向けた、森林環境循環システムの構築を掲げ、その中で、積極的な木材の利用を推進、そして木材の分離発注の推進を掲げ、実際に取り組んできたということでした。この分離発注、今までの材料が、何からなにまでも、すべて業者に一括発注していたものを、材料の発注は、発注者がみずから地元の森林組合や、製材会社に発注をして、その木材を工事業者に材料支給するというものです。もちろんたくさんの課題があり、簡単にはいかないと思いますが、この取り組みは今後富士川町でも、ぜひ検討し研究していつてもらいたい。そして今回の本庁舎建設においても、ぜひこの分離発注の考え方を、いきなりすべては難しいと思いますが、どうか一部分でもこの取り組みを取り入れるということができないかと考えます。町としてもこの本庁舎建設から、ぜひこの分離発注の考えを取り入れていただきたいと思うが、町の考えをお伺いします。

○議長（井上光三君）

管財課長 樋口一也君。

○管財課長（樋口一也君）

分離発注に関する質問にお答えいたします。分離発注につきましては、建築工事とは別に地元産材を調達し、製材まで行った材料を施工業者に直接支給する方式でございます。

町では、この方式の導入に向けて、費用面や乾燥期間の確保などの検討が必要と考えており、現在、県の関係機関や林業事業者等と協議を行っているところであります。

新庁舎の建設に町有林の木材を利用することは、森林整備や産業振興にもつながることから分離発注の利点について精査しながら、導入に向け検討して参りたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

9 番 深澤公雄君。

○9 番議員（深澤公雄君）

今、答弁の中に費用面の検討も必要という答弁がありましたが、費用面の課題も多分出てくると思います。しかし、分離発注の考えを考えると、森林環境の保全も視野にいれていかなければならなくなると思います。今、地元の山は荒廃しています。以前にも里山再生について質問もありました。鶴岡市の取り組みも先ほど申し上げましたように、森林環境の保全から始めたとのこと。分離発注ということ、地元の森林の保全にもつながってくるのではないかと思います。そういったことも考慮して考えてもらいたいと思いますけども、その辺、課題もあると思いますが、どのように考えておりますでしょうか。

○議長（井上光三君）

管財課長 樋口一也君。

○管財課長（樋口一也君）

先ほどの答弁と重なりますけど、費用面の問題、それと分離発注の利点がございします。そういうものを精査しながら、導入に向けて考えて参りたいと思います。以上です。

○議長（井上光三君）

9 番 深澤公雄君。

○9 番議員（深澤公雄君）

分離発注に関しては大変前向きなご答弁をいただきました。ぜひお願いしたいと思います。では2つ目の質問に移りたいと思います。2つ目の学校の再編についてお伺いします。議会の初日に、町長のあいさつの中でも学校再編についての考えが示されましたけれども、ここでもう一度質問させていただきます。昨年の9月議会の一般質問で、中学校の再編の考えをお聞きしました。そのときの答弁は、町の学校規模適正化方針においては、当分の間は現状での配置を継続するとしている。しかし、本町の生徒数は平成33年度をピークに減少が予想される。特に鰯沢中学校においては集団学習による教育効果が懸念されるため、学校規模を適正化方針の見直しをする必要がある。学校再編、義務教育額を含む小中一貫教育など、さまざまな教育制度から、最善の選択となるように議論を深めていくということでした。あれからちょうど1年が経過しましたが、その後の進捗状況をお伺いします。

○議長（井上光三君）

教育総務課長 中込浩司君。

○教育総務課長（中込浩司君）

ただいまの質問に対してお答えいたします。平成25年に策定した「富士川町学校規模適正化基本方針」は、策定からすでに5年が経過しており、学校の現状等についても変化していることや、児童生徒数の減少により教育効果への影響も懸念されております。

こうしたことから、町では、今後の町内小中学校における教育制度のあり方や学校の適正な規模・配置について検討していただくため、平成30年11月に小中学校の校長経験者を委員とした「富士川町小中学校のあり方検討会」を設置しました。

検討会では慎重な検討を重ねていただき、その結果、増穂小学校、増穂南小学校、鰯沢小学校については継続して配置し、増穂中学校と鰯沢中学校については再編統合し、両校の歴史や伝統を併せ持つ新たな学校として設置することが望ましいとする提言書が、平成31年3月に教育委員会に提出されました。

この提言書を受け、児童生徒数が減少する中で、教育環境をどのように整備していくことが望ましいか、現在、教育委員の中で議論しているところであります。

○議長（井上光三君）

9番 深澤公雄君。

○9番議員（深澤公雄君）

再質問です。先ほどの中学校は再編統合、そして新たな学校として設置するとおっしゃっていますが、これはどちらかの学校に吸収合併という考えではないのでしょうか。

議長（井上光三君）

教育総務課長 中込浩司君。

○教育総務課長（中込浩司君）

お答えします。それぞれの特色を生かすことができるよう、両校の歴史や伝統をあわせ持つ、中学校を設置することが望ましいとする提言ですから、どちらかに吸収する形の方の方向の意味ではございません。以上です。

○議長（井上光三君）

9番 深澤公雄君。

○9番議員（深澤公雄君）

そのへんが私も一番気になっていたもので、いい答弁が聞けたと思っております。2つ目の質

間に移りたいと思います。今年の４月に、鰐沢小学校の入学式に出席させていただきました。新入生は１０人でした。私が小学生であったころの鰐沢中部小学校とちょうど同じくらいの人数です。今年の鰐沢小学校入学１年生が入学する前にぜひ結論を出すべきと考えます。いつまでに、学校規模を適正化方針の見直しの結論を出すのかお伺いいたします。

○議長（井上光三君）

教育総務課長 中込浩司君。

○教育総務課長（中込浩司君）

ただいまの質問についてお答えさせていただきます。学校規模適正化方針の見直しの結論につきましては、先に述べました提言書につきまして、その内容を教育委員会の中で議論した後、児童生徒の保護者、学校、地域の皆さまからも幅広い意見をいただくため、新たな懇話会を開催する考えでおります。また、この懇話会で出された意見を集約して、改めて教育委員の中で議論し、新しい学校規模適正化基本方針を、今年中を目標に策定して参りたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

９番 深澤公雄君。

○９番議員（深澤公雄君）

再質問ですが、懇話会を新たに設置して開催するということですが、両校の通学地域、それぞれの方々の意見を聞かないと思うんですが、選任はどのようにされるのでしょうか。

○議長（井上光三君）

教育総務課長 中込浩司君。

○教育総務課長（中込浩司君）

ただいまの質問につきましてお答えいたします。両学校の地域から公平に意見をいただけるよう、地域の代表者や一定の役員など、学校関係者の中から選んでいきたいと考えてございます。以上です。

○議長（井上光三君）

９番 深澤公雄君。

○９番議員（深澤公雄君）

ぜひ、両校の歴史と文化、長い歴史がありますので、そのへんも汲み取れるような再編をしていただければと思います。この質問を終わりにして次の質問に移らせていただきます。先日の５月１８日の山梨日日新聞に、東京五輪開会式、装いは赤と白という見出しで、「来年開催される東京オリンピック、パラリンピックの日本選手団が入場行進で着用する公式服装の選定作業がはじまった。」との記事が掲載されています。そしてその関連記事として、前回の東京オリンピックにおいて、当町出身の望月靖之氏がデザインを考案された、男女ともにデザインは深紅で、下は白に統一された公式服の採用の苦勞が紹介されています。また、今日持ってきたんですけども、この、「１９６４年東京五輪ユニホームの謎」という本が最近出版されて、誰が日の丸カラーをつくったのか、サブタイトルなんですけども、多分富士川町にも取材に来ているみたいですね。非常に大変魅力な本が出されました。この中でまた、望月靖之氏の功績を再確認するという本です。ぜひ皆さんも読んでいただきたいんですけども、今この、塩の華にですね、スポーツミュージアム。平成２９年には、室内の修繕をしてあります。そして何よりも１９６４年の東京オリンピック公式ブレザーが展示されています。ただ私も近くに住んでい

ますので、たまに行くのですがあまり人が入っていません。たぶん、山梨県の人でもあまりこのスポーツミュージアムのことや、望月靖之氏の功績も知らないのではないかと思います。来年、ちょうど1年後には2回目の東京オリンピック、そしてパラリンピックが開催されます。このスポーツミュージアムと望月靖之氏の功績を知ってもらいいい機会ととらえます。町の、貴重な資産として、この機会にぜひ県内外の人にアピールしていくべきと考えますが、町としての考えをお伺いいたします。

○議長（井上光三君）

生涯教育課長 深澤千秋君。

○生涯教育課長（深澤千秋君）

ただいまのスポーツミュージアムの情報発信についてお答えさせていただきます。スポーツミュージアムは、本町出身の望月靖之さんがデザインを考案し、東京オリンピックも公式服装のブレザーとして展示されたものを中心に、オリンピックの関係資料を展示しております。こうした中、2回目の東京オリンピックが開催されることが決定したことを受け、今年の3月、道の駅富士川においてオリンピックフラッグツアーの開催に合わせて、望月靖之さんデザインのブレザーを展示し、アピールしたところであります。町では、ホームページやパンフレットの配布により、スポーツミュージアムの広報を行っているところでございますが、今後、県で予定されているイベントと連携した情報発信に努めていくとともに、観光業者とタイアップした企画などを行って、スポーツミュージアムのアピールを進めていきたいと考えているところでございます。以上です。

○議長（井上光三君）

9番 深澤公雄君。

○9番議員（深澤公雄君）

再質問させていただきます。アピールはいろんなイベントで、これからしていくということですけども、当のスポーツミュージアム、非常に看板等がわかりづらいんですよね。国道から見て何もわかりません。スポーツミュージアムの前にスポーツミュージアムって書いてあって、オリンピックという文字がないんですよね。何が飾ってあるのかちょっとわかりづらいんで、そのへんのところはどういうふうにお考えか、ちょっとお聞きします。

○議長（井上光三君）

生涯教育課長 深澤千秋君。

○生涯教育課長（深澤千秋君）

ただいまの看板について、答弁させていただきます。現在、明確な案内看板表示板がないことから、施設のPRを図るためには、今後関係機関と協議しながら改善していきたいと考えております。それで、オリンピックの文字を使うことに関しては、その看板をどういうイメージで作っていくかによって状況が変わってきますので、県に照会しながら、看板設置の方を、可能かどうかを進めていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（井上光三君）

9番 深澤公雄君。

○9番議員（深澤公雄君）

ぜひ看板、せっかくありますんで、作っていただければと思います。もう1点再質問させていただきますけども、スポーツミュージアム、音がないんですよね。よくああいうとこ

ろいくと、ボタンを押すと、例えば望月靖之氏の紹介とか、そういったガイドみたいなものを置いてあるところもあるんですけど。あるいは、塩の華は従業員さんが、お客さんが入ったときに、簡単にこのミュージアムのこういったものかということを説明できるようにするのかとか、そんなことも考えるべきではないかなと思いますけれども、そういったこと考える考えがありますか。

○議長（井上光三君）

生涯教育課長 深澤千秋君。

○生涯教育課長（深澤千秋君）

施設のアナウンスについてのご質問にお答えをさせていただきます。おもてなしの観点から申し上げますと、アナウンスは大変必要なことと考えております。今後、管理運営機関との相談等しながら、今施設の全体に渡ったPR活動が必要だと考えてございますので、その部分にアナウンスも含めた検討を材料として考えていきたいと思っております。以上です。

○議長（井上光三君）

9番 深澤公雄君。

○9番議員（深澤公雄君）

ぜひお願いしたいと思います。そうすれば塩の華との相乗効果も出てくると思うんで。ぜひ、産業振興とも協力してやっていただければと思います。以上で私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（井上光三君）

以上で、 通告5番 9番 深澤公雄君の一般質問を終わります。ここで暫時休憩します。

休憩 午前 11時01分

---

再開 午前 11時09分